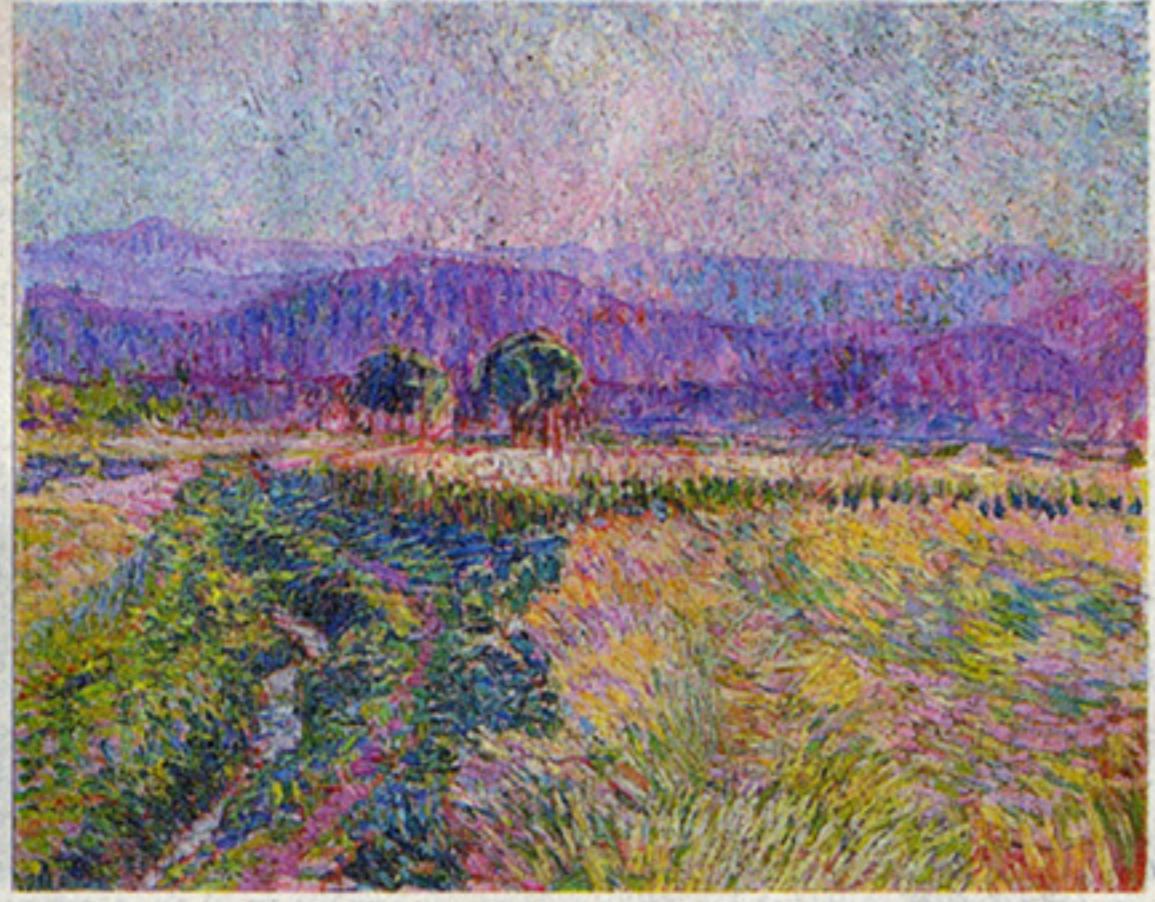


学びや

ヨイムスノツコ



西村五雲「油断大敵」(1923年、元本能小蔵)=  
京都市学校歴史博物館提供



太田喜二郎「麦秋」(1914年、元桃園小蔵)  
=同提供

西村五雲「油断大敵」と太田喜二郎「麦秋」は  
12月2日まで学校歴史博物館(下京区)で展示しています。

◇  
西村五雲「油断大敵」と太田喜二郎「麦秋」は  
12月2日まで学校歴史博物館(下京区)で展示しています。

## 新しい校舎の完成祝う

その際、新しい作法室  
(礼儀作法を学ぶ教室)

(明治時代～)

京都の市立学校には絵画などの美術作品が多く所蔵されています。画家や地域の人によって学校へと寄贈されたもので、京都を代表する著名画家たちの作品が学校を華やかに飾ってきたので

所蔵されています。画家就学者数の増加に伴い、1872(明治5)年頃から5年ほどの間に小学

校では校舎の新築、増改築が盛んに行われました。下京区の尚徳校が

中京区の本能小は21歳で校舎の大半を焼失しましたが、その2年後、

上京区の桃園校には洋画家、太田喜二郎の作品「麦秋」が飾られています。桃園校は喜二郎の母校。34(昭和9)年の校舎新築記念に贈られました。立派な鉄筋校舎はその後すぐ到來した室戸台風から子どもたちを守りました。

学校所蔵の美術品には、新しい校舎が建つた喜びが込められているものが多いためです。

(京都市学校歴史博物館  
学芸員 森光彦)

こうした美術作品はどういう機会に寄贈されたのでしょうか。特に多いのは、学校の校舎が新築や増改築され、その完成の折に、記念の品として贈られたケースです。

また、1907(同40)年には尋常小学校が6年制となり、各校で教室などの増築が多くなりました。千種掃雲が描いた源氏物語図の掛け軸は、10

歳校に贈られ、新しく建てられた講堂の床の間にクリート造りとなり、新しい学びやの完成を祝う

所蔵していた久保田米懶筆「孟母断機図」は74(同7)年、同校の新校舎落成を記念して描かれ、画家自身によって寄贈されました。

こうした美術作品はどういう機会に寄贈されたのでしょうか。特に多いのは、学校の校舎が新築や増改築され、その完成の折に、記念の品として贈られたケースです。

また、1907(同40)年には尋常小学校が6年制となり、各校で教室などの増築が多くなりました。千種掃雲が描いた源氏物語図の掛け軸は、10

歳校に贈られ、新しく建てられた講堂の床の間にクリート造りとなり、新しい学びやの完成を祝う

所蔵していた久保田米懶筆「孟母断機図」は74(同7)年、同校の新校舎落成を記念して描かれ、画家自身によって寄贈されました。

その後、大正から昭和初期にかけて、多くの校舎は木造に替わってコンクリート造りとなり、新しい学びやの完成を祝う

所蔵していた久保田米懶筆「孟母断機図」は74(同7)年、同校の新校舎落成を記念して描かれ、画家自身によって寄贈されました。

その後、大正から昭和初期にかけて、多くの校舎は木造に替わってコンクリート造りとなり、新しい学びやの完成を祝う

所蔵していた久保田米懶筆「孟母断機図」は74(同7)年、同校の新校舎落成を記念して描かれ、画家自身によって寄贈されました。